

五島列島方言の記述に向けた 宇久町方言の調査報告

二階堂 整* ・ 門屋 飛央**
前田 桂子*** ・ 原田 走一郎****

1. はじめに

本稿は、2022年10月に長崎県佐世保市宇久町（うくまち）平（たいら）にて実施した方言調査の報告を行うものである。宇久町は、五島列島の最北端に位置する島である。宇久町方言の先行研究に、中村（2019）がある。中村（2019）は、宇久町北部の野方方言を記述している。今回調査した宇久町平方言は、門屋（2020）で記述が進んでいる。今回の調査は、門屋（2020）を補完する調査を行った。この調査は、長崎県の五島列島全体の方言を記述するための初期調査にあたる。この調査結果をもとに、五島列島全体を視野に入れた調査項目を精査する。本稿は調査結果をまとめ、詳細な調査を必要とする点を示すことを目的とする。

2. 宇久町と今回の調査について

佐世保市宇久町は、宇久島と寺島の二島を合わせた町である。図1に示す

* 福岡女学院大学人文学部

** 福井工業高等専門学校一般科目教室（人文社会科学系）

*** 長崎大学教育学部

**** 長崎大学多文化社会学部

通り、島は五島列島の最北端に位置する¹。佐世保市のホームページによると、2022年12月現在で人口は1,031世帯1,766人である²。

国土地理院各誌 平14誌 第149号

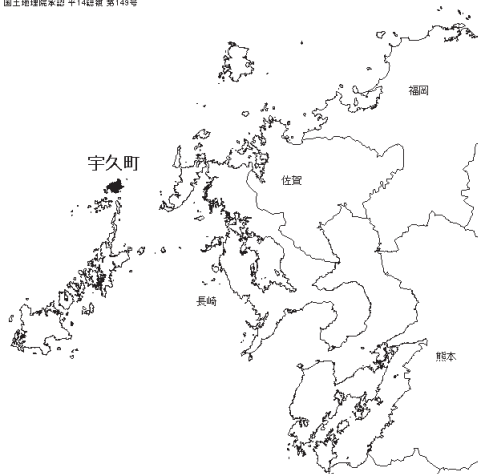


図1 宇久島の位置

本稿では、宇久町平郷で話されている方言を宇久町平方言と呼ぶ。平郷には、平、針木（はりぎ）、堀川（ほりこ）、船倉（ふなぐら）、佐賀里（さがり）、旦の上（だんのえ）、向江（むかえ）、山本、松原、川端、十川（じゅうがわ）などの集落がある。この平郷は宇久町南部にあり、九州本土からのフェリーや高速船は、この平郷の港から出入りを行っている。

今回の調査は、以下の6名に調査を行った。

(1) 話者A：1933年生まれ、女性。0-19歳のとき宇久町平郷平、19-22歳のとき大分県別府市、23歳以降は宇久町平郷平で生活。

話者B：1939年生まれ、女性。0-19歳のとき宇久町平郷平、20-21歳のとき石川県、21-22歳のとき愛知県名古屋市、23-25歳

¹ 地図は KenMap Ver.9.2 (<http://www5b.biglobe.ne.jp/~t-kamada/CBuilder/kenmap.htm>) を用いて作成したものである。さらに、筆者が作成した地図の宇久町の位置に、黒色を付した。

² <http://www.city.sasebo.lg.jp/kikaku/seisak/toukei-jinkou.html> (2022年12月22日検索)

五島列島方言の記述に向けた宇久町方言の調査報告（二階堂他）

のとき大阪府，26歳以降は宇久町平郷平で生活。

話者C：1940年生まれ，男性。0－5歳のとき佐賀県，5－20歳のとき宇久町平郷針木，21－28歳のとき山口県下関市，28－75歳のとき広島県福山市，75歳以降は宇久町平郷針木で生活。

話者D：1941年生まれ，男性。0－4歳のとき中国満州，4－現在まで宇久町平郷平で生活。

話者E：1942年生まれ，女性。0－現在まで宇久町平郷平で生活。

話者F：1948年生まれ，男性。0－15歳のとき宇久町平郷平，16－18歳のとき長崎県長崎市，19－24歳のとき福岡県福岡市，25－30歳のとき長崎県対馬市，31－40歳のとき宇久町平郷平，41－56歳のとき長崎県長崎市，57歳以降は宇久町平郷平で生活。

3. 調査報告

3.1. 複数を表す「ドン」

「ドン」は、「ドモ（共）」に由来する形式であり、「複数」を表す。「ドン」は、「ド」という形式でもみられる。以下に，一人称複数と二人称複数の文を示す。用例は，まず話者を示し，その次にカタカナで宇久町平方言の文を示す。括弧内にその宇久町平方言の共通語訳を示す。

(2) 【一人称複数】

話者A：オッドガ イッヨ（私たちが行くよ）

話者C：オッドンガ イッヨ（私たちが行くよ）

話者F：オッドンガ イッケン（私たちが行くから）

(3) 【二人称複数】

話者C①：ワッドンワ アソンジョッテクレンネヨ

（お前たちは遊んでいてくれないか）

話者C②：ンドミヤ アソンジョッテクレレヨ

（お前たちは遊んでいてくれよ）

(2) は、一人称「オレ」に「ドン」が接続している。(3) は、二人称「ワレ」や「シー」に「ドン」が接続している。どちらも複数を示す。なお、「シー」は、「ウヌ」に由来する形式である。

次に、一人称単数の文を示す。以下は、グループのうち誰が行くかを話し合い、「私が行く」や「私を連れて行け」と申し出る場面である。

(4) 【一人称単数】

話者 B ①：オーガ イッテネー (私が行くからね)

話者 B ②：オーガ イッヨネー (私が行くよ)

話者 B ③：オーバ ツレイケヨネ (私を連れて行けよ)

話者 C ①：{オーガ/オラガ} イッヨ (私が行くよ)

話者 C ②：オーバ ツレテケ (私を連れて行け)

話者 F ①：オーガ イッケン (私が行くから)

話者 F ②：オーモ ツレテイケヨ (私も連れて行けよ)

話者 F ③：オーバ ツレテイケヨ (私を連れて行けよ)

宇久町平方言では、一人称単数に「オー」が用いられる。しかし、次のように同じ文脈で「オー」に「ドン」が接続する形式もみられる。

(5) 【一人称単数】

話者 A ①：オッドミヤ イカンヨ (私は行かないよ)

話者 A ②：オッドミヤ イッヨ (私は行くよ)

話者 A ③：オッドモ ツレイケヨ (私も連れて行けよ)

話者 A ④：オッドンモ イッショニ イコヤ (私も一緒に行こう)

話者 A は、「オッドミヤ」を用いている。「オッドミヤ」は、「オレドモワ」に由来する形式である。一人称「オレ」に「ドン」が接続した形式が、一人称単数の文に用いられている。

3.2. 代名詞「ワガ」

「ワガ」は、二人称代名詞である。以下に、用例を示す。

(6) 話者 A：オッドメワ イランケンカンニ ワガ クエバ ヨカッタイ

（私はいらぬからお前が食えばいいよ）

話者B：ワタシャ ヨカッジャケン ワガ タベレヨ

（私はいいんだからお前が食べろよ）

話者F：ワガ イケ（お前が行け）

「ワガ」は、所格の「デ」や「累加」の「モ」といった助詞と共に起る場合も、「ワガ」という形式で用いられる。「ワガ」は、主格の助詞「ガ」を含んだ形式で、一語化していると考えられる。

(7) 話者A①：ワガデ カンガエレバ ヨカッタイ

（自分で考えればいいんだよ）

話者A②：ワガモ モツテイケヨ（お前も持って行けよ）

話者B：ワガデ カンガエレヨ（自分で考えろよ）

話者C：ワガモンバ モツテケ（お前のものを持って行け）

この「ワガ」が、一人称を表す文もみられる。「ワガ」は、共通語の「自分」のような再帰代名詞の働きがみられる。

(8) 話者F：ワガデ カンガユッケン（自分で考えるから）

なお、「ワレ」に由来する「ワー」も二人称代名詞で用いられている。以下に、「ワガ」の調査の際に別回答のあった文を示す。

(9) 話者A：ワーモ モツテイカンネヨ（お前も持っていけよ）

話者C：ワンガ カンガエレ（お前が考えろ）

二人称代名詞には、「ンガ」もある。話者の内省によると、「ンガ」は、自分の子どもか孫に対して使うことばである。

(10) 話者B①：ワタシャ ヨカッジャッテ ンガ タベレヨ

（私はいいんだからお前が食べろよ）

話者B②：ンガ クエヨ（お前が食えよ）

話者C：オラ ヨカケン ンガ クエ（私はいいからお前が食え）

話者F：オーワ ヨカケン ンガ クエ（私はいいからお前が食え）

この「ンガ」も主格の助詞「ガ」を含んで一語化している可能性がある。用例の*は、話者が非文法的であると述べたことを示している。

(11) 話者 F ①：シーガトバ モツテイケ (お前のを持って行け)

話者 F ②：{ンガツバ/*ンガツバ} モツテケ (お前のを持って来い)

「ンガ」に準体助詞の「ト」が接続している。準体助詞の「ト」は、後続音に逆行同化して、促音化する。

3.3. 指示詞

指示詞は、共通語と同様に「コソア」が用いられる。宇久町平方言では、「コレ」の語末の母音 e が脱落し、語末が長音化して「コー」となる。これは「ソレ」「アレ」でも同様である。

(12) 話者 A：コーバ ミテクレレバ (これを見てくれれば)

話者 C ①：ソーバ ミテクレンカ (それを見てくれないか)

話者 C ②：コーバ ミテクレンカ (これを見てくれないか)

話者 C ③：アーバ ミテクレンカ (あれを見てくれないか)

話者 D ①：{コー/コ} (これ)

話者 D ②：コーガサイ (これがさ)

3.4. 終助詞「チャモンバ」

残念な気持ちを表すとき、終助詞「チャモンバ」が用いられることがある。この形式は、共通語の終助詞「ものを」に相当すると考えられる。

(13) 話者 A：サキン ュックレレバ カマエチョッタッチャモンバ

(先に言ってくれば用意しておいたんだけど)

話者 C ①：サキ ュックレレバ ヨーイシチョッタトコレ

(先に言ってくれば用意しておいたところを)

話者 C ②：ヨーイ シチョッタツニナー (用意しておいたのにな)

「先に言ってくれば用意しておいたのに」という文に対して、話者 A は「チャモンバ」を使用すると回答したのに対し、話者 C は使用しないと回答した。話者 C は残念を表すために、「トコレ」(ところを)や「ツニナー」(のにな)を用いている。

3.5. ガ・ノ交替

宇久町平方言の主格助詞は、「ガ」と「ノ」である。門屋（2020：82）は、「ノ」が他動詞文の主語では用いられないと述べている。今回の調査では、名詞の種類を変えても、その傾向がみられることを調査した。まず、人物の固有名詞の例を示す。

(14) 話者 A：{(個人名) ガ/* (個人名) ノ} ワッタテン (個人名) ニ
カタズケサセレヨ

((個人名) が (窓を) 割ったから (個人名) に片付けさせろよ)

話者 C：タローガ マドバ ワッタ (太郎が窓を割った)

話者 F：タローガ マドバ ワッガッタゾ (太郎が窓を割ったぞ)

固有名詞が他動詞文の主語のとき、「ノ」は用いられない。次に、動物名詞の例を示す。

(15) 話者 A：{インノコガ/* インノコン} ワッタッタイ

(犬の子が割ったんだよ)

話者 C：インガ マドバ ワッタ (犬が窓を割った)

話者 F：{インガ/* インノ} マドオ ワッガッタ (犬が窓を割った)

動物名詞が他動詞文の主語のときも、「ノ」は用いられない。最後に、無生物名詞の例を示す。

(16) 話者 A：タイフーカー ヤラレッシモタヨ

(台風にやられてしまったよ)

話者 C：タイフーガ マドバ ワッタ (台風が窓を割った)

話者 F：タイフーデ {マドガ/マドン} コワレタ

(台風で窓が壊れた)

無生物名詞を他動詞文の主語にすることに対して、話者が文を作りづらいという傾向がみられた。「台風が窓を割った」という文に対して、話者 A は受動文の動作主を表す「カラ」を無生物名詞に接続した文を回答している。「タイフーガ」(台風が) は使用しないと回答した。話者 F は、「マドガ コワレタ」(窓が壊れた) という自動詞文を回答している。「マドン」(窓が) の

「ン」は、主格助詞「ノ」の異形態である。

3.6. 名詞語末音節の狭母音に接続する与格助詞「ニ」

門屋（2020：17）では、宇久町平方言で「与格」の「ニ」が名詞の語末音節の狭母音 //i,u// に接続したとき、縮約が起こる語があると述べている。例えば、//miti=ni//（道に）が /miiti/ となり、//kenbutu=ni//（見物に）が /kenbuti/ のようなものが挙げられる。ただし、この縮約は規則的に起こるものではない。今回の調査では、//hizi=ni//（肘に）について聞き取りを行った。

(17) 話者 A：ヒンニ アタッタヨ（肘に当たったよ）

話者 C：ヒヒニ アタッタ（肘に当たった）

//hizi=ni//（肘に）は、門屋（2020:18）で /hiizi/ となると述べている例である。しかし、今回の調査で、縮約した語形での回答はなかった。縮約が起こる要因について、今後は音調やアクセントを踏まえた考察を行う。

3.7. 受動文の動作主を表す「カラ」

「カラ」は、「起点」を表す助詞である。『方言文法全国地図』第27図「犬[に]（追いかけられた）」には、受動文の動作主に「カラ」類を用いる回答があり、九州地方の長崎県、熊本県、鹿児島県、東北地方の山形県に集中しており、宮崎県、山口県、沖縄県にも一部、存在する。宇久町平方言でも、受動文の動作主を「カラ」で表すことができる。

(18) 話者 A：アメカー フーコマレッ コマッタヨ

（雨に降り込まれて困ったよ）

「カラ」は共通語の「ニ」と異なり、使役文の動作主を表すことはできない。

(19) 話者 C：{マゴニ／*マゴカラ} サラバ アラワセレバ ヨカッタイ

（孫に皿を洗わせればいいんだ）

話者 F：{ソンコニ／*ソンコカラ} アラワセレバ

（その子に洗わせれば（いい））

3.8. 動詞の音便形

子音語幹動詞は、「過去」の「タ」, 「結果継続」の「 Chol 」など, t 音で始まる接尾辞に接続する場合, 異形態をとる。この異形態を音便形と呼ぶ。

(20) a. 語幹末子音が k, g のとき, イ音便になる。

(例) //kak-ta/ / '書いた' → /*kai-ta/ → /kjaa-ta/,

//ojog-ta/ / '泳いだ' → /*ojoi-da/ → /oe-da/

b. 語幹末子音が s のとき, 硬口蓋摩擦音 [ç] になる。

(例) //kas-ta/ / '貸した' → /kaH-ta/

c. 語幹末子音が t, r のとき, 促音便になる。

(例) //kat-ta/ / '勝った' → /kaQ-ta/,

//odor-ta/ / '踊った' → /odoQ-ta/

d. 語幹末子音が n, m のとき, 撥音便になる。

(例) //sin-ta/ / '死んだ' → /sin-da/,

//nom-ta/ / '飲んだ' → /non-da/

e. 語幹末子音が b, w のとき, ウ音便になる。

(例) //asob-ta/ / '遊んだ' → /*asou-da/ → /aso-da/,

//waraw-ta/ / '笑った' → /*warau-ta/ → /waro-ta/

/kar-/ '借りる' は r 語幹動詞であり, 促音便の形式が用いられる。

(21) 話者 A : トナンノ イエカー ショーユバ カッタヨ

(隣の家から醤油を借りたよ)

話者 C : トナリン イエカー ショーユバ カッタ

(隣の家から醤油を借りた)

話者 F : トナーカー ショーユバ {カリッケー / カッテケー}

(隣から醤油を借りてこい)

/kaw-/ '買う' は w 語幹動詞であり, ウ音便の形式が用いられる。

(22) 話者 A ① : ショーユノ ノーナッタケン コッキタ

(醤油がなくなったから買ってきた)

話者 A ② : ショーユバ {コータ / *カッタ} (醤油を買った)

話者 C: キョー スーパーデ ショーユバ コータ
(今日スーパーで醤油を買った)

話者 F: スーパーデ ショーユバ {コーテケー/コッケヨ}
(スーパーで醤油を買ってこい)

上記の規則にあてはまらない動詞音便形を以下に示す。まず、s 語幹動詞の例を示す。

(23) 話者 A: ジェンバ キャータヨ (金を貸したよ)

話者 C: ゼンバ カヒタ (金を貸した)

話者 F: カネバ {カシタ/キャータ} (金を貸した)

話者 A, F は、//kas-ta//‘貸した’ → /*kai-ta/ → /kjaa-ta/ というイ音便の語形を回答した。この s 語幹動詞のイ音便は、他の動詞でもみられた。以下は、//das-//‘出す’の例である。

(24) 話者 A: ゴモツバ ジャータヨ (ごみを出したよ)

話者 C: ゴミバ {ダヒタ/ダシタ} (ごみを出した)

話者 F: ゴンバ ダシタ (ごみを出した)

話者 A は、「ジャータ」(出した)というイ音便の語形を回答した。これは、//das-ta//‘出した’ → /*dai-ta/ → /*djaa-ta/ → /zjaa-ta/ という語形変化を想定する。/*dja/ は [d^ha] という音だと考えられる。しかし、宇久町平方言ではこの音を用いておらず、音声体系の「空き間」になっている。そこで、[d^ha] に類似した [za] (/zja/) で発音し、「ジャータ」という形式ができたと考えられる。

次に、g 語幹動詞の例を示す。(20) の規則に従えば、//nug-//‘脱ぐ’は、イ音便の形式が用いられる。//nug-ta//‘脱いだ’ → /*nui-da/ → /nii-da/ という形式が予想される。宇久町平方言において //ui// という母音連続は、/ii/ となる。//suika// (西瓜) → /siika/, //suika// (酸っぱい) → /siika/ などが挙げられる。

(25) 話者 A ①: ヌッカッタテン セーターモ ナンモ ニンシモタ
(暑かったからセーターも何もかも脱いでしまった)

話者 A ②：ゴロット ヌンシモタ（全部脱いでしまった）

話者 C：セーターバ {ヌーダ／ニーダ}（セーターを脱いだ）

話者 F：セーターオ {ヌーダ／*ニーダ}（セーターを脱いだ）

調査の結果、規則に従った「ニーダ」（脱いだ）のほかに、話者 A ②・C・F において、「ヌーダ」（脱いだ）という形式がみられた。

3.9. 「ナガラ」に接続する動詞音便形

宇久町平方言の音便形は、(20) に示した通りである。門屋（2020:50）は、宇久町平方言において、「同時進行」の「ナガラ」に接続するとき、音便形とは異なる形式で接続すると述べている。今回の調査では、それらの追加調査を行った。

まず、k 語幹動詞の例を示す。k 語幹動詞は、音便形でイ音便となるのに対し、「ナガラ」に接続するとき、促音便となる。

(26) 話者 A：トモダチー テガンバ カッナガラ マゴノ クットバ
マッコョッタ

（友だちに手紙を書きながら孫が来るのを待っていた）

話者 C：トモダツニ テガンバ カッナガラ マゴガ クットバ
マッコョッタ

（友だちに手紙を書きながら孫が来るのを待っていた）

話者 F：トモダツエ テガミバ {カッナガラ／カキカキ}
マゴタチバ マッコョッタ

（友だちへ手紙を書きながら孫たちを待っていた）

次に、g 語幹動詞の例を示す。g 語幹動詞は、音便形でイ音便となるのに対し、「ナガラ」に接続するとき、撥音便となる。

(27) 話者 A：ヌンナガラ クツシタモ ナンモ ヒッカカッテキタヨ

（ズボンを）脱ぎながら靴下も何もかも引っかかってきたよ）

話者 C：ズボンバ ヌンナガラ イッショニ クツシタモ ヌーダ

（ズボンを脱ぎながら一緒に靴下も脱いだ）

話者 F: ズボンオ ヌンナガラ クツシタモ ヌーダ

(ズボンを脱ぎながら靴下も脱いだ)

なお、話者 A は「ニンナガラ」(脱ぎながら)という形式も用いないことはないと回答した。

r 語幹動詞の例を示す。r 語幹動詞は、音便形で促音便となるのに対し、「ナガラ」に接続するとき、撥音便となる。

(28) 話者 A: フロニ ヒャーナガラ ノモゴチャイヨ

(風呂に入りながら(酒を)飲みたいよ)

話者 C: フロニ ヒャンナガラ オサケバ ノモゴチャー

(風呂に入りながらお酒を飲みたい)

話者 F: フロニ {ヒャーナガラ/ヒャンナガラ} サケバ

ノモゴチャー

(風呂に入りながら酒を飲みたい)

b 語幹動詞の例を示す。b 語幹動詞は、音便形でウ音便となるのに対し、「ナガラ」に接続するとき、撥音便となる。

(29) 話者 A: アソンナガラ ((孫が田んぼで)遊びながら(待っていた))

話者 C: タンボデ アソンナガラ イネカーノ オワットバ

マッコッタ

((孫が)田んぼで遊びながら稲刈りが終わるのを待っていた)

話者 F: チーサカ コーガ ターノ ナカデ アソンナガラ

イネカーバ マッコッタ

(小さい子が田の中で遊びながら稲刈りを待っていた)

b 語幹動詞について、門屋 (2020: 50) は促音便の「アソンナガラ」(遊びながら)の例もみられることを述べている。今回の調査では、促音便の形式の回答はなかった。

w 語幹動詞の例を示す。w 語幹動詞は、語幹末が uw のときは、音便形と同様で「ナガラ」に接続するときもウ音便となる。

(30) 話者 A: メヒバ クーナガラ ハナソダイ (飯を食いながら話そうよ)

話者C：コンドン リョコーノコッバ メヒバ クーナガラ
シャベローカイ

（今度の旅行のことを飯を食いながら喋ろうか）

話者F：メヒバ クーナガラ ハナヒゾ（飯を食いながら話すぞ）

しかし、動詞語幹末がawのとき、音便形と異なり、促音便となる。(31)は/waraw-/‘笑う’、(32)は/kaw-/‘買う’の文である。

(31) 話者A：{ワラツナガラ／ワラツワラツ} テバ フーロイヨ
（笑いながら手を振っているよ）

話者C：ワラツナガラ テバ フツタ（笑いながら手を振った）

話者F：ワラツナガラ テオ フットツタナ

（笑いながら手を振っていたな）

(32) 話者A：シナモンバ カツナガラ シャベッタヨ
（品物を買いながら喋ったよ）

話者C：シナモンバ キャーナガラ シャベッタ

（品物を買いながら喋った）

話者F：カイモンノトキ シナモンオ カツナガラ トモダツト
シャベツトツタ

（買い物のとき品物を買いながら友だちと喋っていた）

(32) /kaw-/‘買う’の話者Cは、音便形と同じくイ音便の形式を用いている。動詞語幹末がowのときも同じく、促音便となる。

(33) 話者A：アヒコン ヒカゲデ イコツナガラ ハナシバ スーヤ
（あそこの日陰で休みながら話をしようか）

話者F：ヒカゲデ イコツナガラ ハナシバ キッケン

（日陰で休みながら話を聞くから）

s語幹動詞の例を示す。s語幹動詞は、音便形と同様で「ナガラ」に接続するときも、語幹末子音が硬口蓋摩擦音 [ç] になる。

(34) 話者A：テーバ ハナヒナガラ（手を放しながら）

話者C：テバ ハナヒナガラ ウヒロニ サガレ

(手を放しながら後ろに下がれ)

m 語幹動詞の例を示す。m 語幹動詞は、音便形と同様で「ナガラ」に接続するときも、撥音便になる。

(35) 話者 A : アヒコン ヒカゲデ ヤスンナガラ ハナシバ スーヤ

(あそこの日陰で休みながら話をしようか)

話者 F : ヒカゲデ ヤスンナガラ ハナシバ キッケン

(日陰で休みながら話を聞くから)

今回の調査では、以上の動詞を調査した。門屋 (2020:50) は、t 語幹動詞が音便形と同じく、促音便になると述べている。//mat-nagara/'待ちながら' → /maq-nagara/ が挙げられる。また、n 語幹動詞が音便形と同じく、撥音便になると述べている。//sin-nagara/'死にながら' → /sin-nagara/ が挙げられる。

以上の結果をまとめると、以下の通りになる。

(36) 【音便形と「ナガラ」に接続する形式が異なる動詞語幹】

a. 語幹末子音が k,aw のとき、促音便になる。

b. 語幹末子音が g,r,b のとき、撥音便になる。

【音便形と「ナガラ」に接続する形式が同じ動詞語幹】

c. 語幹末子音が t のとき、促音便になる。

d. 語幹末子音が n,m のとき、撥音便になる。

e. 語幹末子音が s のとき、硬口蓋摩擦音 [ç] になる。

f. 語幹末子音が uw のとき、ウ音便になる。

3.10. 形容詞に接続するアスペクト形式

門屋 (2020:99) は、宇久町平方言で形容詞に「結果継続」の「 Chol」が接続する文が稀にみられると述べている。今回の調査では、門屋 (2020) で使用がみられた文を用いて、追加調査を行った。

(37) 話者 A ① : アントツガ イチバン ワーカッター

(あの時が一番悪かったなあ)

話者 A ②：ワーカッチョッタチ イオッタヨ

（悪かったって言っていたよ）

話者 C：アンコモ アントツガ イッパン ワーカッットタイ

（あの子もあの時が一番悪いときだよ）

話者 E：ワーカッチョーカモシレンネ

（昔は）悪かったかもしれないねえ）

今回の調査では、話者 A ②・E が形容詞に「結果継続」の「 Chol 」を接続する形式を使用した。話者 C は「ワーカットキ」（悪いとき）という名詞述語文での回答であった。

3.11. イ語尾の形容詞

宇久町方言では、形容詞はカ語尾で用いられる。小値賀町（おぢかちょう）藪路木島（やぶろきしま）の方言集である古川（2017）には、イ語尾の形容詞の項目がある。藪路木島は、小値賀島の南西にあり、宇久島の近隣にある島である。宇久町は、2006年に佐世保市に編入するまでは、小値賀町とともに北松浦郡に属していた。そのため、宇久町方言でもイ語尾の形容詞の使用を調査した。

(38) 【ザメーモン（大きなものだよ）：古川（2017：132）】

話者 B：ザーマンカ（大きい）

話者 C：ザマナカモンバ モラッタ（大きなものをもらった）

話者 D：ザーマナカ（大きい）

話者 B・C・D は、「ザマナカ」（大きい）のイ語尾の形式である「ザメー」を使用しないと回答した。また、古川（2017:272）にある「フターモン」（大きなものだよ）についても、話者 C・D は使用しないと回答した。

参考のため、今回の調査で得た形容詞の語例を以下に列挙する。すべて話者 D に聞き取りしたものである。

(39) フトカ（大きい）、{コマカ／コンマカ／*コマンカ}（小さい）、ムゲラヒカ（かわいそう）、ヌッカ（暑い）、チンタカ（冷たい）、

{サッカ／*サンカ／*サーカ} (寒い), トンゼンナカ (寂しい),
ワーカ (悪い), ワッカ (若い)

3.12. 否定接続

宇久町方言では、「否定接続」に「動詞否定形+ジ」が用いられる。

(40) 話者 A: ビョーインナ イカンジ ダマツテ シチョッタヨ

(病院は行かずに黙ってしていたよ)

話者 B: ハラン イタカナラ クワンジ ネレヨ

(腹が痛いなら食べずに寝ろよ)

話者 C: ビョーインニ {イカンジ／イカンデ／*イカジ／*イカジネ}

イエデ ネチョッタツヨ (病院には行かずに家で寝ていたよ)

話者 D①: クワンジ ネレ (食べずに寝ろ)

話者 D②: デテサルカンジ イエ オレヨ (出歩かずに家にいろよ)

話者 D③: イカンジ ヨカジャナカネ (行かなくていいじゃないか)

話者 D④: シャッチガ イカセジ ヨカジャナカナ

(無理に行かせないでいいじゃないか)

話者 D④「イカセジ」(行かせないで)は動詞否定形ではなく、動詞語幹に「ジ」が接続している。

3.13. 原因・理由節をつくる「テン」「ケン」

宇久町方言では、原因・理由節をつくる形式に「テン」と「ケン」がみられる。門屋(2020:123)では、この両形式を異形態と考えている。本調査では、「テン」と「ケン」の使用の違いを考察するため、入れ替えの可否について調査を行った。

(41) 話者 A: アシノ {イトナツタテン／イトナツタケン}

イカエンジャッタヨ

(足が痛くなったから行けなかったよ)

話者 B①: イッシヨニ {クッテン／*クッケン} スモデネー

（（引越してくるから）一緒に住もうね）

話者 B②：トーキョーノ {ヒトジャッテンネ／*ヒトジャッテンネ}
（東京の人だからね）

話者 C：アヒガ {イタカッタテン／イタカッタケン}
イカレンカッタツタイ
（足が痛かったから行くことができなかったんだよ）

話者 A は両形式とも使用可能と回答したのに対し、話者 B と話者 C はどちらか一方のみを使用可能と回答した。

3.14. 当為表現

宇久町平方言の当為表現には「動詞否定形＋ネバ／バ／ト」がみられる。

(42) 話者 A：テンキヨホーバ {ミランネバ／ミランバ} ワカランヨ
（天気予報を見ないとわからないよ）

話者 F：テンキヨホー {ミランネバ／ミランバ／ミラント}
オチツカンナー
（天気予報を見ないと落ち着かないなあ）

その他、「動詞語幹＋ニャー」の形式もみられた。

(43) 話者 C：テンキヨホーバ ミラニャー {ユックリナカ／ユックーナカ}
（天気予報を見ないと落ち着かない）

話者 A・F の両名とも「ミラネバ」といった「動詞語幹＋ネバ」の形式は、文章語のような改まったイメージがあるとのことであった。

3.15. 仮定表現

3.15.1. 「レバ」

有田編（2017）を参考に、「レバ」は「認識的条件文」「予測的条件文」「反事実的条件文」における使用を調査した。

「認識的条件文」とは、前件はすでに決まっているけれども、その前件の真偽を話し手は知らずに述べるものである。

(44) 【認識的条件文】

話者 A：モドロゴチャロ モドレ (帰りたければ帰れ)

話者 C：モドロゴチャレバ モドレ (帰りたければ帰れ)

話者 A の「モドロゴチャロ」(帰りたければ) という形式の由来は、今後の課題とする。

次に「予測的条件文」とは、事象時が発話時より時間的に後であり、発話時に真偽を話し手が決められないものである。

(45) 【予測的条件文】

話者 A ①：ギバツテ レンシューセレバ ジョーシ ナートタイ
(頑張って練習すれば上手になるのだ)

話者 A ②：アシタ アメン フレバ ウンドーカイワ ヤメタイ
(明日雨が降れば運動会は止めだよ)

話者 B：ケーバ マネシヨットタイ
(娘の夫が宇久島に) 来れば (私のことばを) まねしている
んだよ)

話者 C ①：ギバツテ レンシューセレバ ジョヒニ ナットタイ
(頑張って練習すれば上手になるのだ)

話者 C ②：アシタ アメン フレバ ウンドーカイワ ナカッチタ
(明日雨が降れば運動会はないってよ)

「反事実的条件文」とは、話し手が否定的なスタンスで、前件が事実反していると知ったうえで仮定を述べるものである。

(46) 【反事実的条件文】

話者 A ①：モチヨット ハヨ ケーバ ヨカッタコレ
(もう少し早く来ればよかったのに)

話者 A ②：モチット ハヨ セレバ マット ジョーズニ
ナッチョートバイ
(もう少し早くすればもっと上手になっているよ)

話者 C：モチットバッカ ハヨ ケーバ {ヨカッタコレ／

五島列島方言の記述に向けた宇久町方言の調査報告（二階堂他）

ヨカッタニナー}

（もう少し早く来れば {良かったのに／良かったのになあ}）

これらの例から、宇久町平方言では、仮定表現において広く「レバ」が用いられていることがわかる。

3.15.2. 「タラ」

「タラ」も「認識的条件文」「予測的条件文」「反事実的条件文」での使用がみられる。

(47) 【認識的条件文】

話者C：モドロゴチャッタラ モドレ（帰りたいかったら帰れ）

「明日雨が降ったら運動会はない」という文において、話者Cは「フツタラ」（降ったら）を用いないと回答した。同じ文を使った調査で、話者Aも「フツタラ」（降ったら）を用いないと回答した。

(48) 【予測的条件文】

話者B：チカテツデ イッタラ ソノホーガ ラクカッデスモンネ
（地下鉄で行ったらその方が楽ですものね）

話者C①：ギバツテ レンシューシタラ
（頑張って練習したら（上手になる））

話者C②：アシタ アメン {フレバ／*フツタラ} ウンドーカイワ
ナカッチタ
（明日雨が降ったら運動会はないってよ）

上記の文において、話者Aは「レンシューシタラ」（練習したら）を用いないと回答した。

「反事実的条件文」の「もっと早く来たら良かったのに」という文における「来たら」という部分について、話者Aは「キタラ」（来たら）を用いると回答した。それに対し、話者Cは「キタラ」（来たら）を用いないと回答した。「タラ」は、「レバ」と比べて話者によって使用に差がある。

3.15.3. 「ナラ」

「ナラ」は「認識的条件文」での使用がみられた。

(49) 【認識的条件文】

話者 D：ネッノ アートナラ ヤスマセロヨ

(熱があるのなら休ませろよ)

ただし、「認識的条件文」の「明日雨が降るなら運動会は中止になる」という文における「降るなら」という部分について、話者 A・C は「フーナラ」(降るなら) を用いないと回答した。

「予測的条件文」の「頑張って練習するなら上手になる」という文における「練習するなら」という部分について、話者 A・C は「レンシュースーナラ」(練習するなら) を用いないと回答した。

4. まとめと今後の課題

本稿は、調査結果の報告のため、できるかぎり話者の回答を示した。今後は、五島列島全体に調査地点を広げ、これらの調査項目を考察していく。

参考文献

- 有田節子編 (2017) 『日本語条件文の諸相—地理的変異と歴史の変遷—』 くろしお出版
門屋飛央 (2020) 「佐世保市宇久町平方言の記述的研究」 博士論文 (九州大学)
国立国語研究所編 (1989) 『方言文法全国地図 第1集』 財務省印刷局
中村京介 (2019) 「長崎県五島列島宇久島野方言の文法概説」 修士論文 (東京外国語大学)
古川初義 (2017) 『長崎県小値賀町藪路木島方言集～無人になった島のことばの記録～』
私家版

謝辞

方言調査にご協力くださった皆様に感謝を申し上げます。なお、本稿は JSPS 科研費 (22K00583) の助成を受けています。